

**\*3月末で退職したM君が残したものーその3ー (田村式アリダード)**

これも3月末に退職したM君がアーカイブ室に残して行ったものの一つである。筆者は「アリダード」が一体何の目的で使われる機器かということさえ知らなかった。箱には「田村式アリダード」と書かれている(写真1)。どうやら測量の器械らしいことは箱の中を見て見当はついた(写真2)。



写真1 田村式アリダードの箱

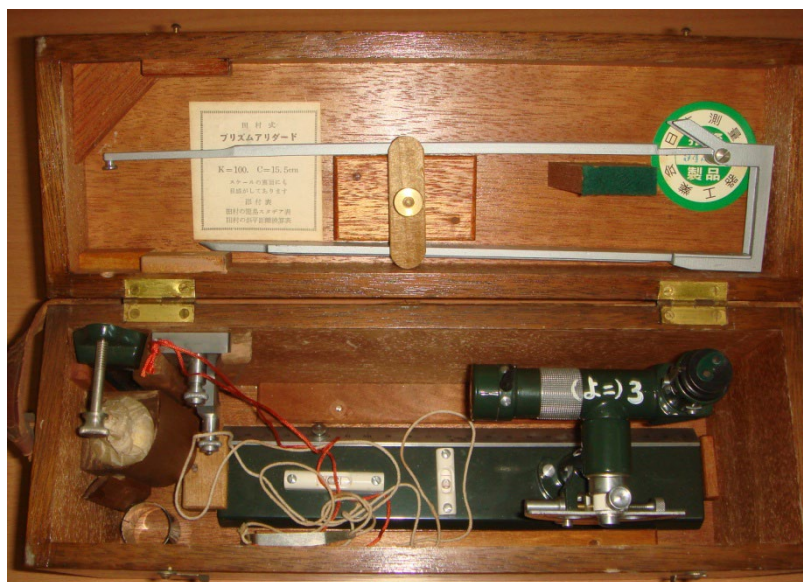


写真2 箱の蓋を開けたところ

アリダード (alidade) は日本語では「示方規」、平板測量に使う機器で、平板上に置いて、目標地点を見て方向を決めるのに使うとある。にわか勉強で解説しても始まらない。なぜ、このアリダードが東京天文台(国立天文台の前身)にあるのかについてはいろいろ考えられる。そもそも測量の基本は天文観測であったから測量用のセオドライトも天文台

にはいくつも残っている。また、測光部にあったことから夜光観測の地点についての測量をやったのかもしれない。箱の中にあったものを写真3に示す。

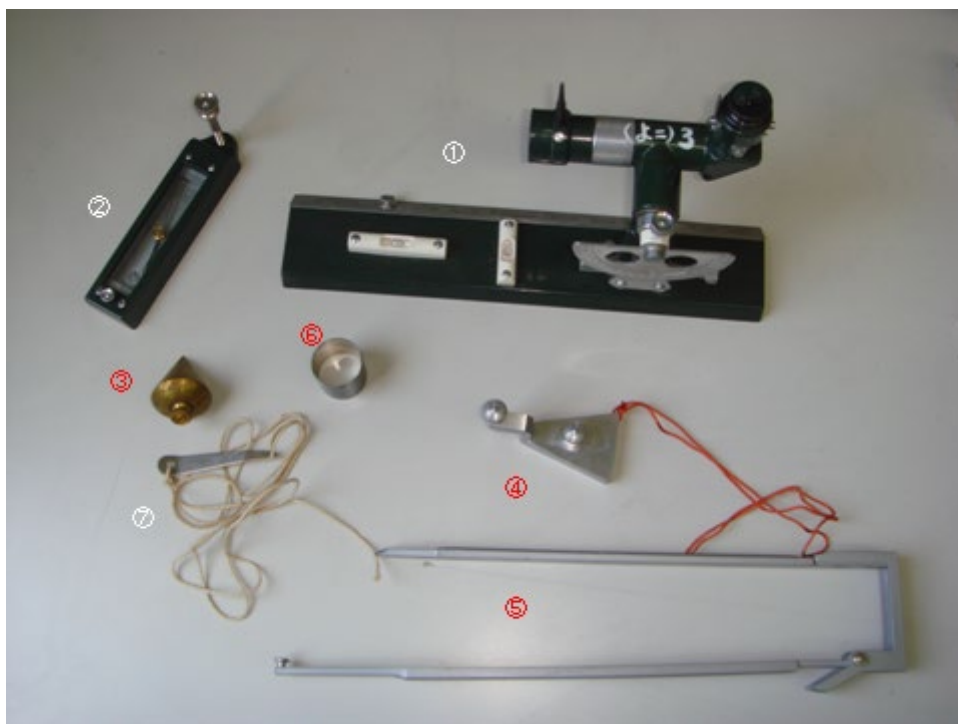


写真3 箱に入っていたもの

① が水準器のついた架台に載っている望遠鏡、②がコンパス（方位磁石）、③が吊り下げの錘、④、⑤が用途不明の金具、⑥が望遠鏡のフード、⑦が吊り下げの紐  
説明書の図が写真4である。

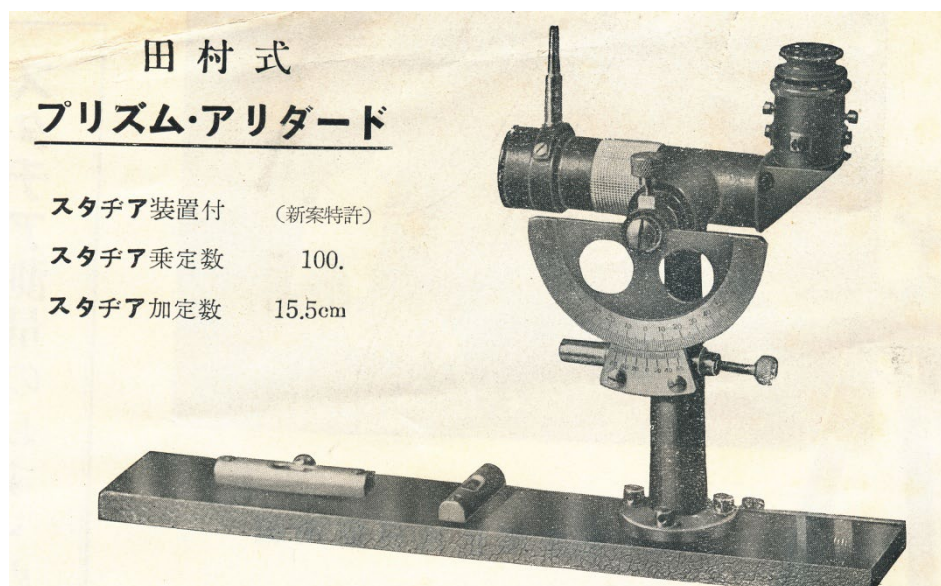


写真4 田村式プリズム・アリダード

アリダードを使うには写真5の三脚に載せた測板と呼ばれる平板が必需のようである。

この平板の上に紙を敷き、その上に記録していくのだろう。



写真4 アリダードを載せる測板

M君からアーカイブ室に譲られたものは、アリダードと呼ばれるもので、2方の水準器のついた架台に載った高度読み取り目盛りのついた望遠鏡、コンパス(方位磁石)、用途不明の金具2点、吊り下げなどである(写真3)。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)